

遠山麿子編三



下

板屋本山

~ 13

3810

6

種彦作
國貞画



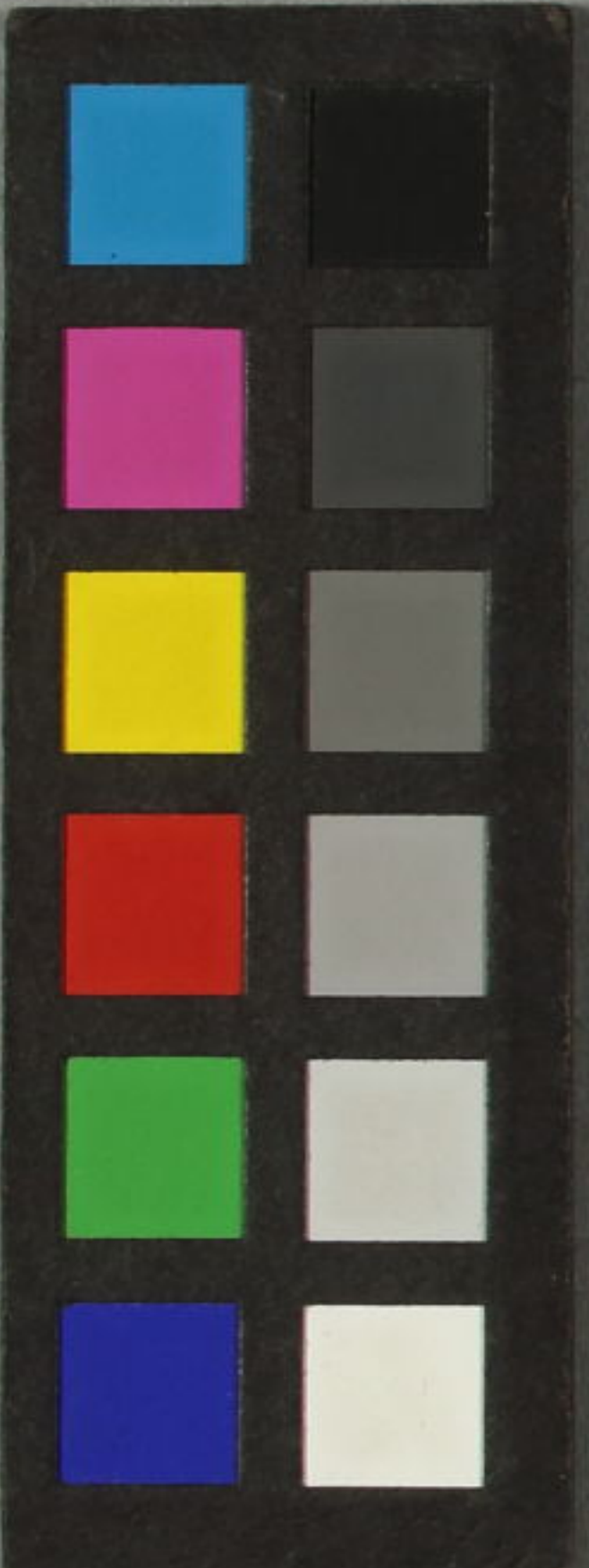
上

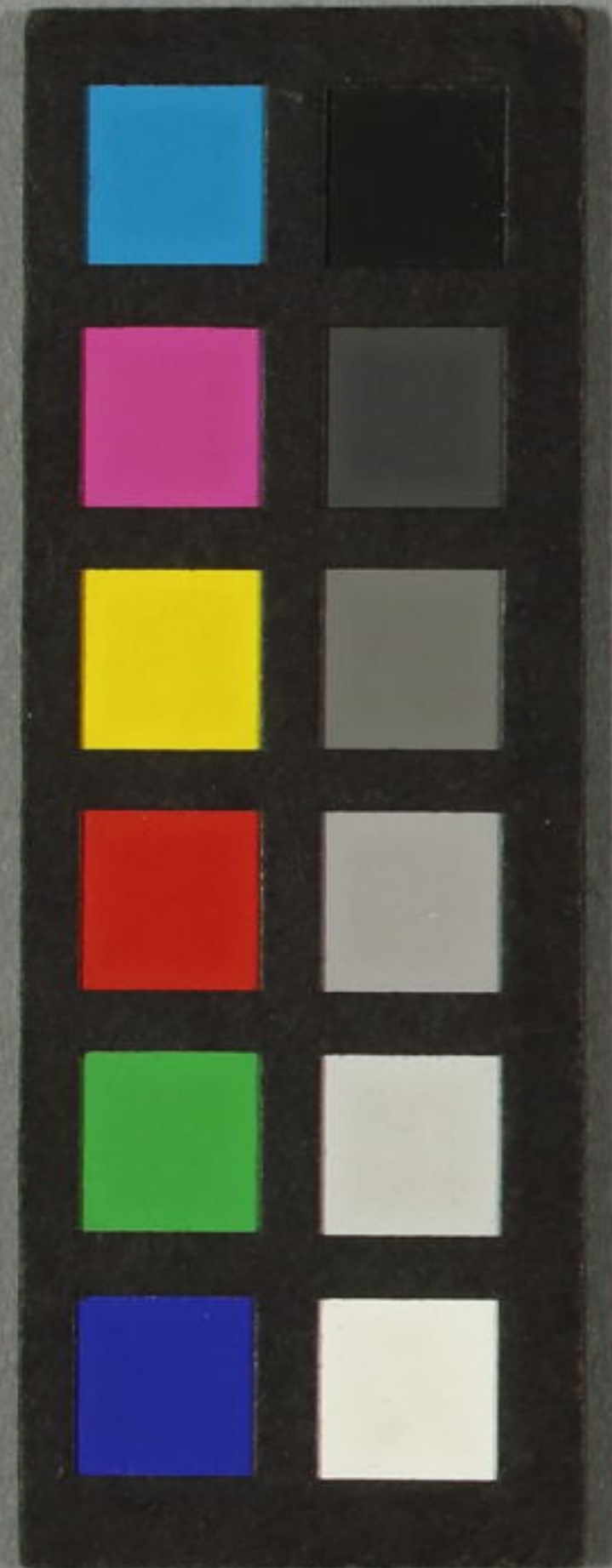
天保
壬辰
春新版

~ 13

3810

5





種彦作
國貞画

天保
壬辰
春新版

上

~ 13
3810
5



13
3810
5

天保三壬辰春

柳亭種彦作

御詠染木遠山鹿子

三編上

歌川國貞画

榮久堂梓



京の下の方作が見基ひ久て一晚の三十五十の落し話も今
 下の一話が五晩續後小道具をかざりつけ前小燭基の仕つけ
 するけ音曲の絶妙役者の身振よりくらつて宛芝居と見ると
 如く繪冊子又如此用の入舌きり雀僅五枚十枚である
 子も衆がせんく今の浮世ハかざる衆も合點のゆくぬチン
 フレカン長物語が流行るれとそれハ上りのうへのと予如三下
 本作者の自國学の音曲も漢学の声色もあつともち種根
 本の素續長谷川るる歌川へあつへと繪の道具なてそれを
 たのふ是で三晩目「のゆく明後日ハ大切六角の館まをあげま
 相かそらむね來駕の程を願ひあげます」さてト扇をとりあつ
 物ぐるりの發語あるべし

天保壬辰春

柳亭種彦





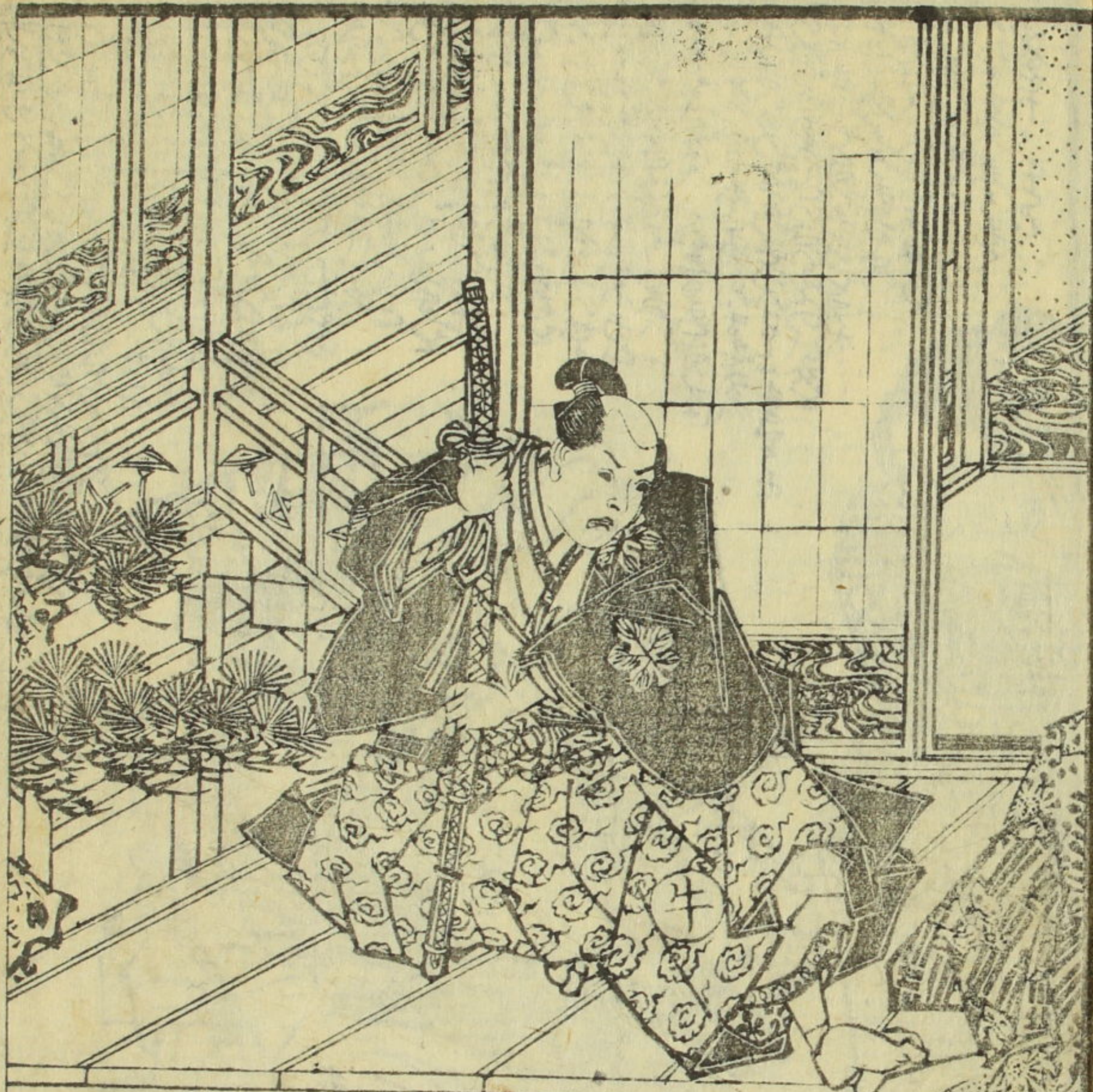
事^ト
 大津又平が住家の
 茶^ヲをえり

RYMIF-3111



發端

けこころの
 初編の巻首
 いまは死画



此の如き事は
 世に稀なり
 其の由は
 何れに在り
 夫れを
 知る者
 少しなり
 其の事
 如何に
 なるに
 由り
 其の事
 如何に
 なるに
 由り



二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十

此の如き事
 世に稀なり
 其の由は
 何れに在り
 夫れを
 知る者
 少しなり
 其の事
 如何に
 なるに
 由り
 其の事
 如何に
 なるに
 由り

Handwritten text in the upper right corner of the right page, written in a cursive style.



Handwritten text at the bottom of the right page, below the illustration.

Handwritten text in the upper left corner of the left page, written in a cursive style.



Handwritten text in the lower half of the left page, surrounding the illustration.

Vertical handwritten text on the far left edge of the left page.



〇此の如くは...
 〇此の如くは...
 〇此の如くは...

〇此の如くは...
 〇此の如くは...
 〇此の如くは...

〇此の如くは...
 〇此の如くは...
 〇此の如くは...

〇此の如くは...
 〇此の如くは...
 〇此の如くは...





國貞画種彦作

此の物語は、先年より賣半一評見おれりる初編二編ハ揚屋の場
より山三が館の半ありて筆ととあり今年あつたま
三編四編ハ名古屋がまきひの續より大津又平の住
家不至れば相かたむとせ所ゆとあめ程奉希い



浄書
川金書

不破
名古屋

訛染遠山鹿子 三編 歌川國貞画

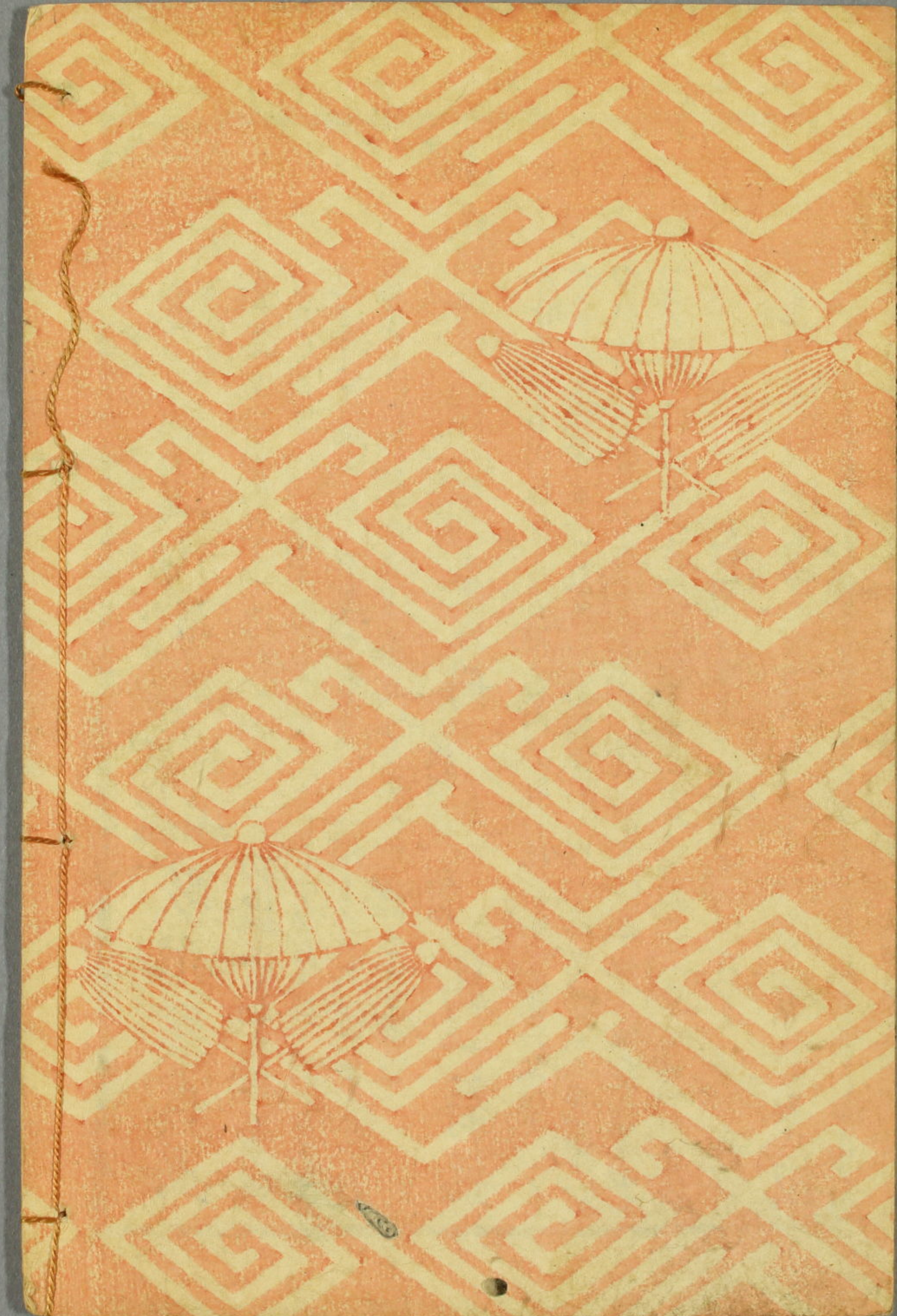
先年より賣半一評見おれりる初編二編ハ揚屋の場
より山三が館の半ありて筆ととあり今年あつたま
三編四編ハ名古屋がまきひの續より大津又平の住
家不至れば相かたむとせ所ゆとあめ程奉希い

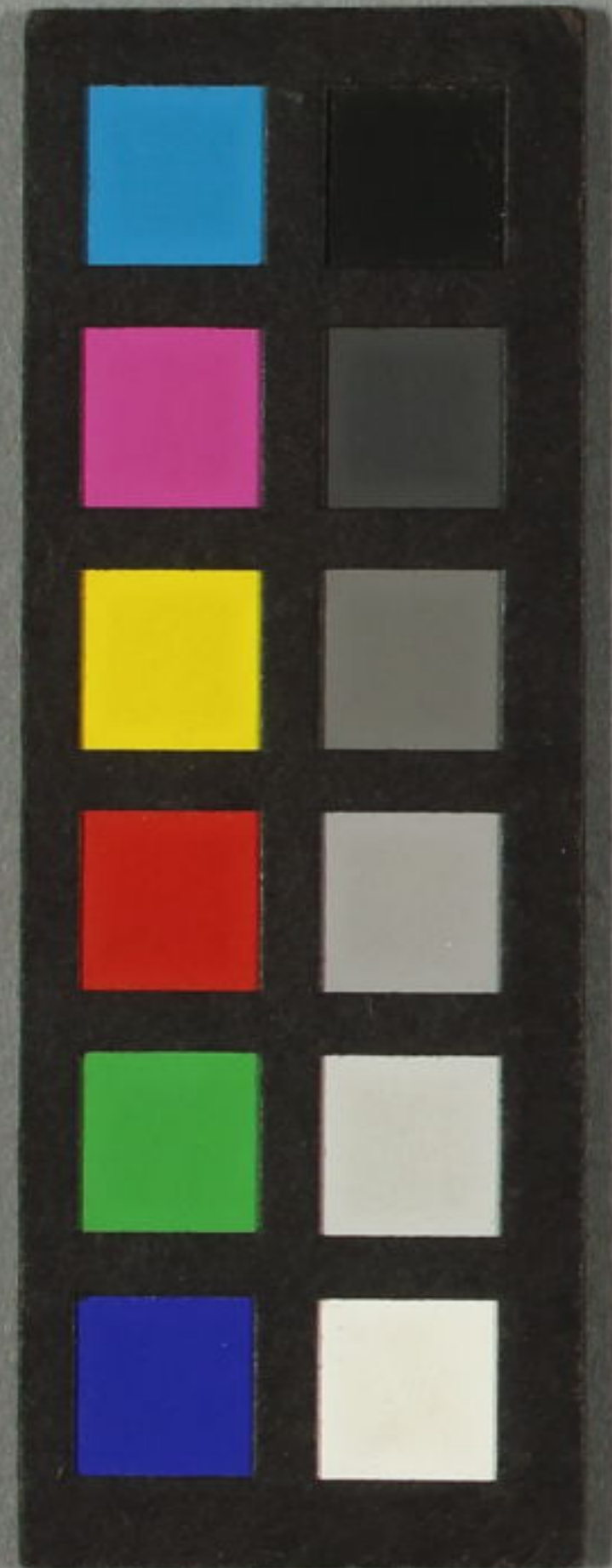
小説梅花扇全八冊 前北齋 爲一翁画

か好さま方もおぞむとの和後内その後朱一貴とのつよい人
六安と小悪王とをろろを扇の繪さじりるこれとらん漢字と
つひ物知りゆりく作おれあむ狂言ゆも浄瑠璃ゆもさうさうと
りよりく繪のもやうのめづり合せ合巻のさふりハ浄ゆとあめ

右兩種作者 柳亭種彦

江戸より町おぢ橋角繪冊子向丸 山本屋平吉板





13
3810
6

遠山廉子

三編 下冊

種彦作
國貞画

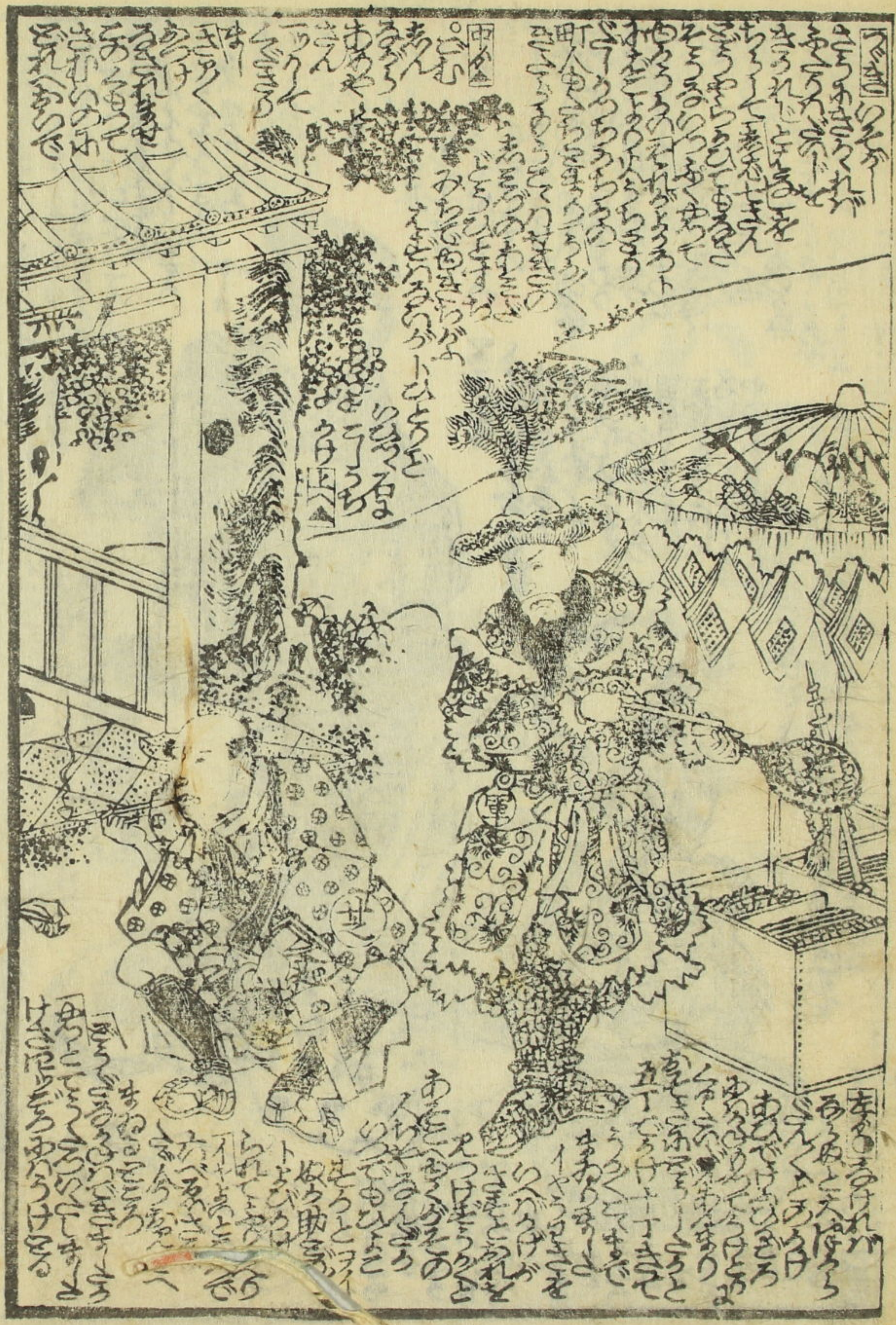
山本屋
版

三



山本屋

十一





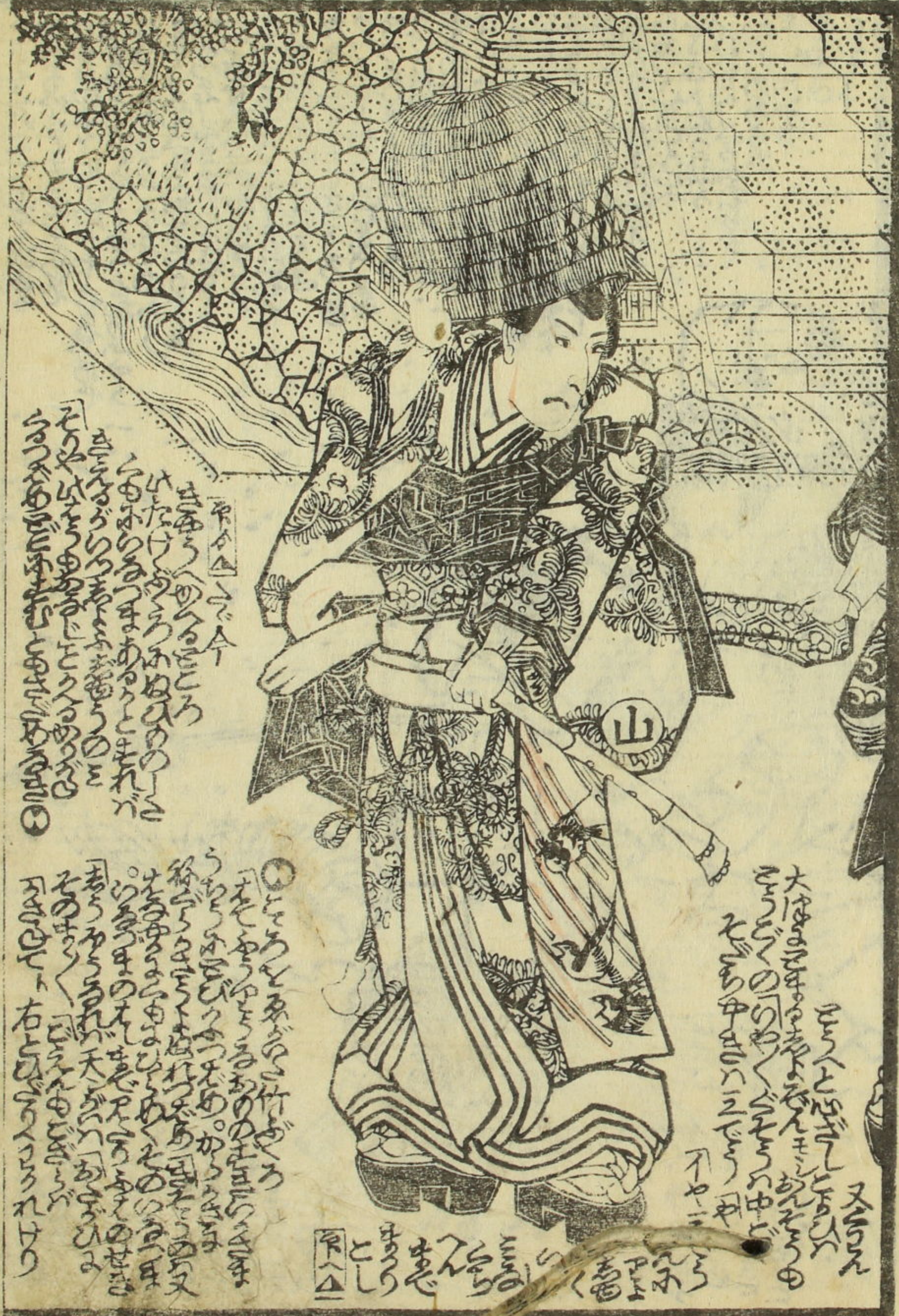
右の□は...
 大なる...
 武田信玄の...
 武田信玄の...
 武田信玄の...

左の□は...
 武田信玄の...
 武田信玄の...
 武田信玄の...



関の清水
 左の□は...
 武田信玄の...
 武田信玄の...
 武田信玄の...

右の□は...
 武田信玄の...
 武田信玄の...
 武田信玄の...



Ms. J. 1. 1. 1.

山
大はまの...
山

山
大はまの...
山

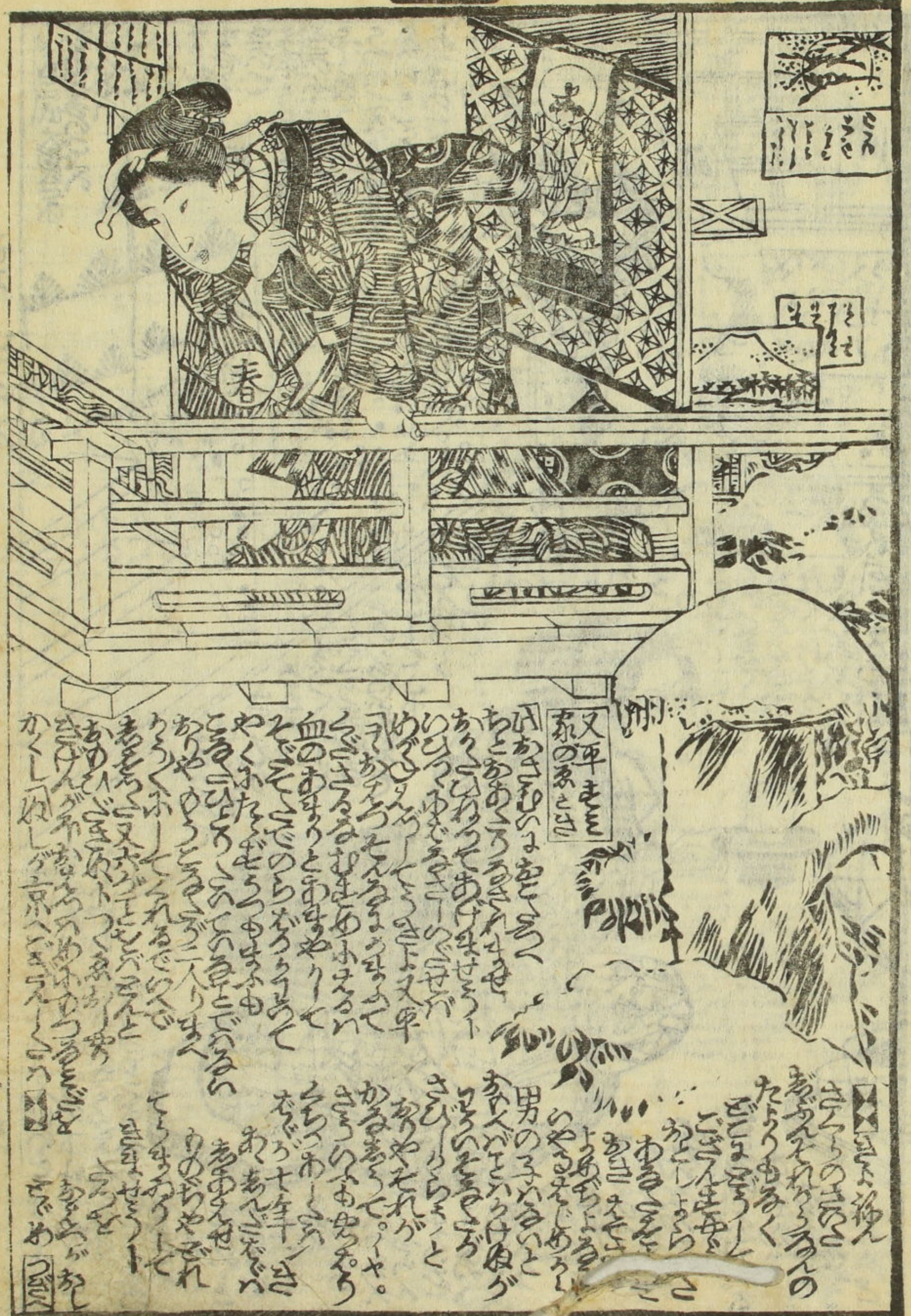
山
大はまの...
山



Ms. J. 1. 1. 1.

伴
大はまの...
伴

伴
大はまの...
伴

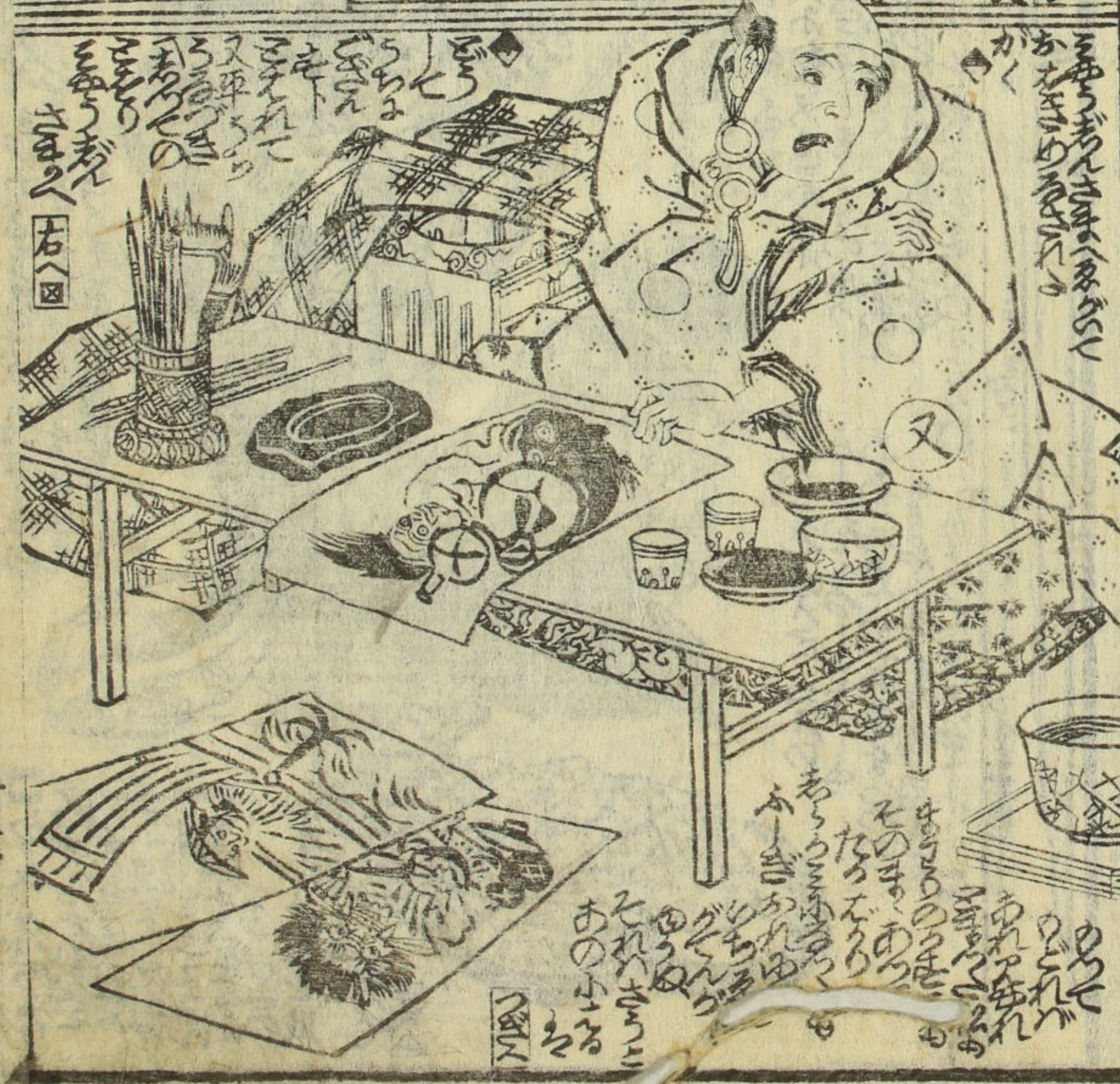
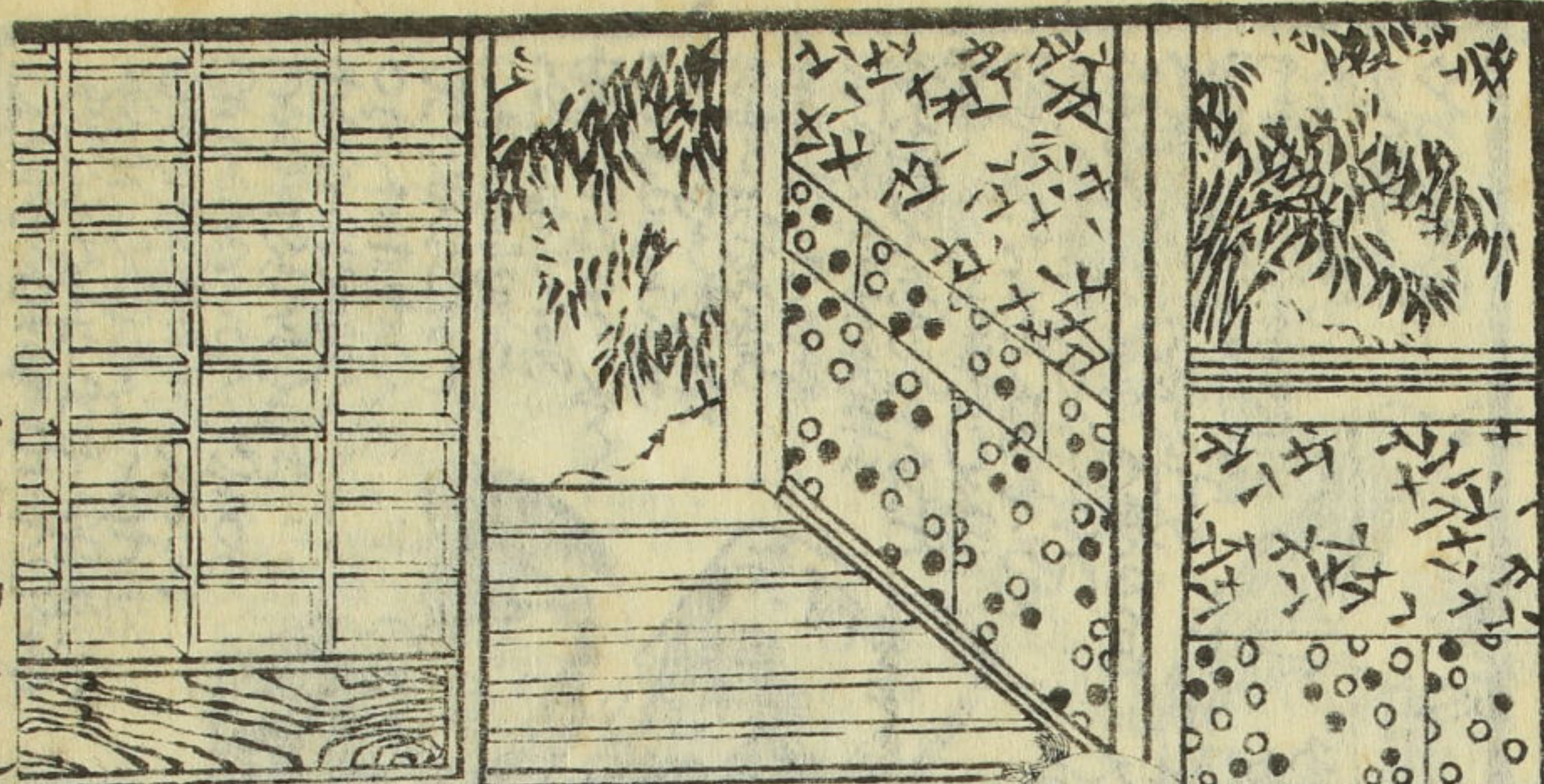


又平まき
 又平まき
 ...
 ...
 ...
 ...



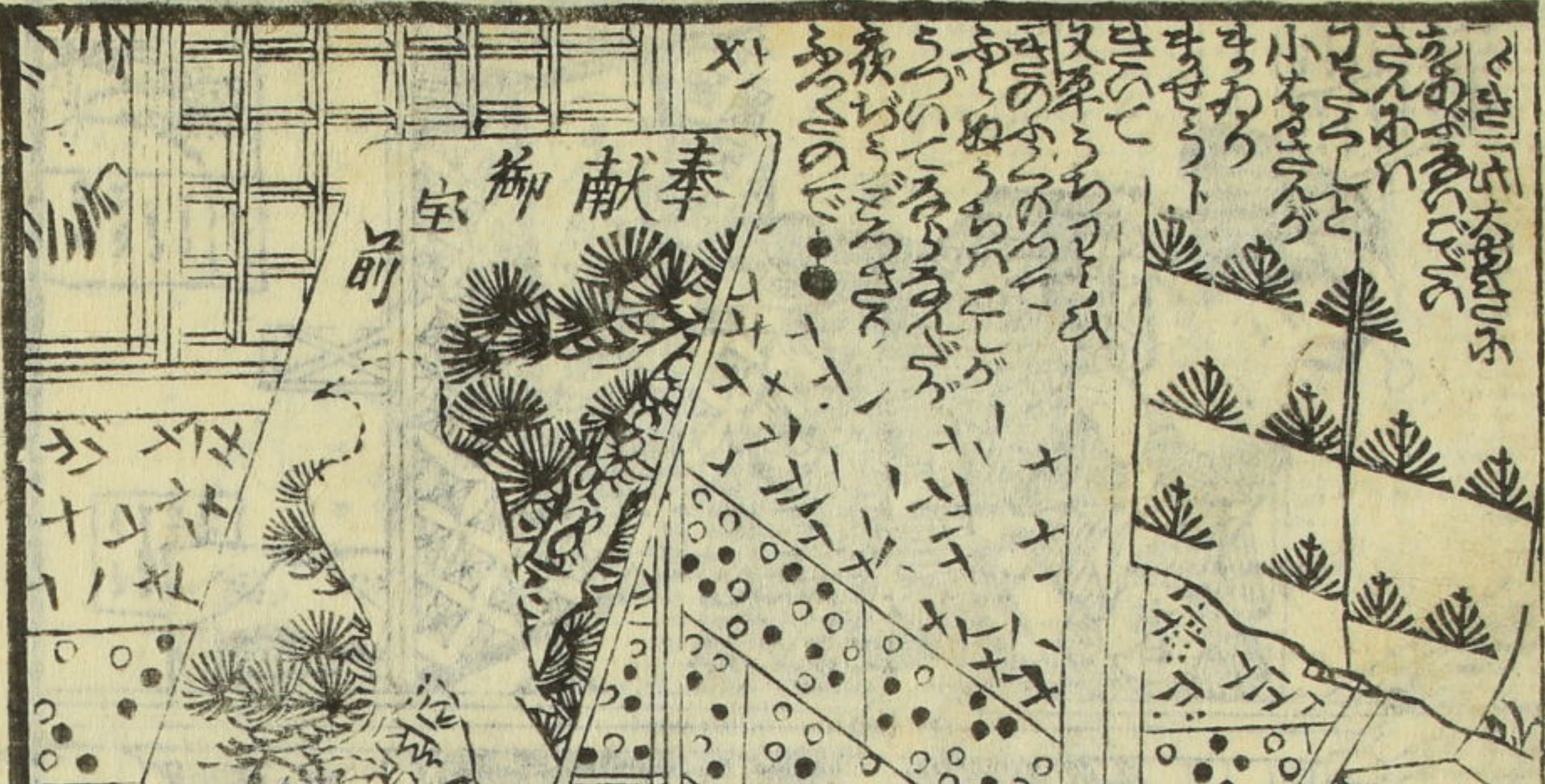
〇こころは上又平由きく...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

茶室



茶室の奥に坐す女は、茶の湯を注ぎ、茶碗を手に取り、静かに飲む。その姿は、静寂の中に、優雅な美しさを放ち、見る者の心を癒す。

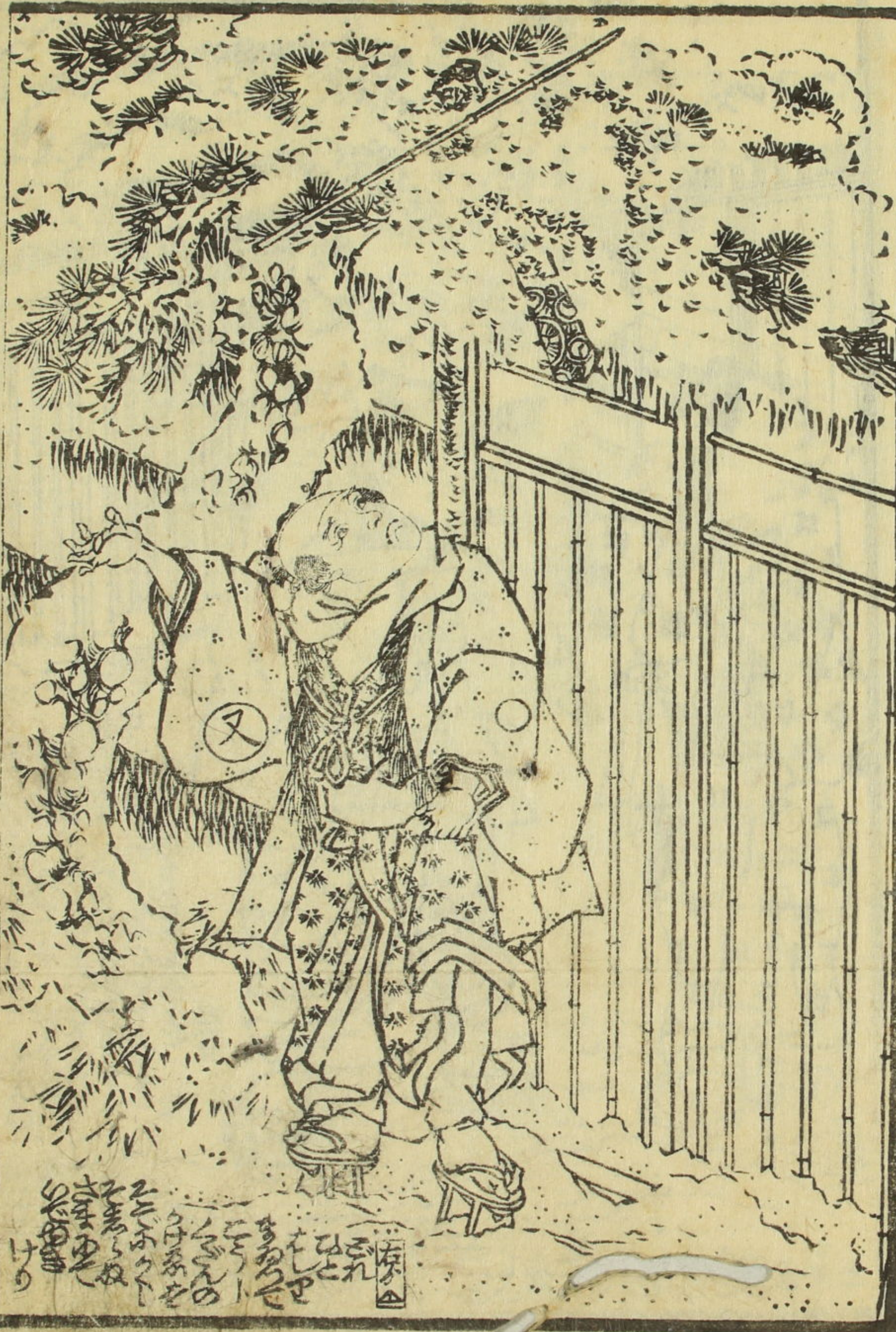
十七



茶室の奥に坐す女は、茶の湯を注ぎ、茶碗を手に取り、静かに飲む。その姿は、静寂の中に、優雅な美しさを放ち、見る者の心を癒す。

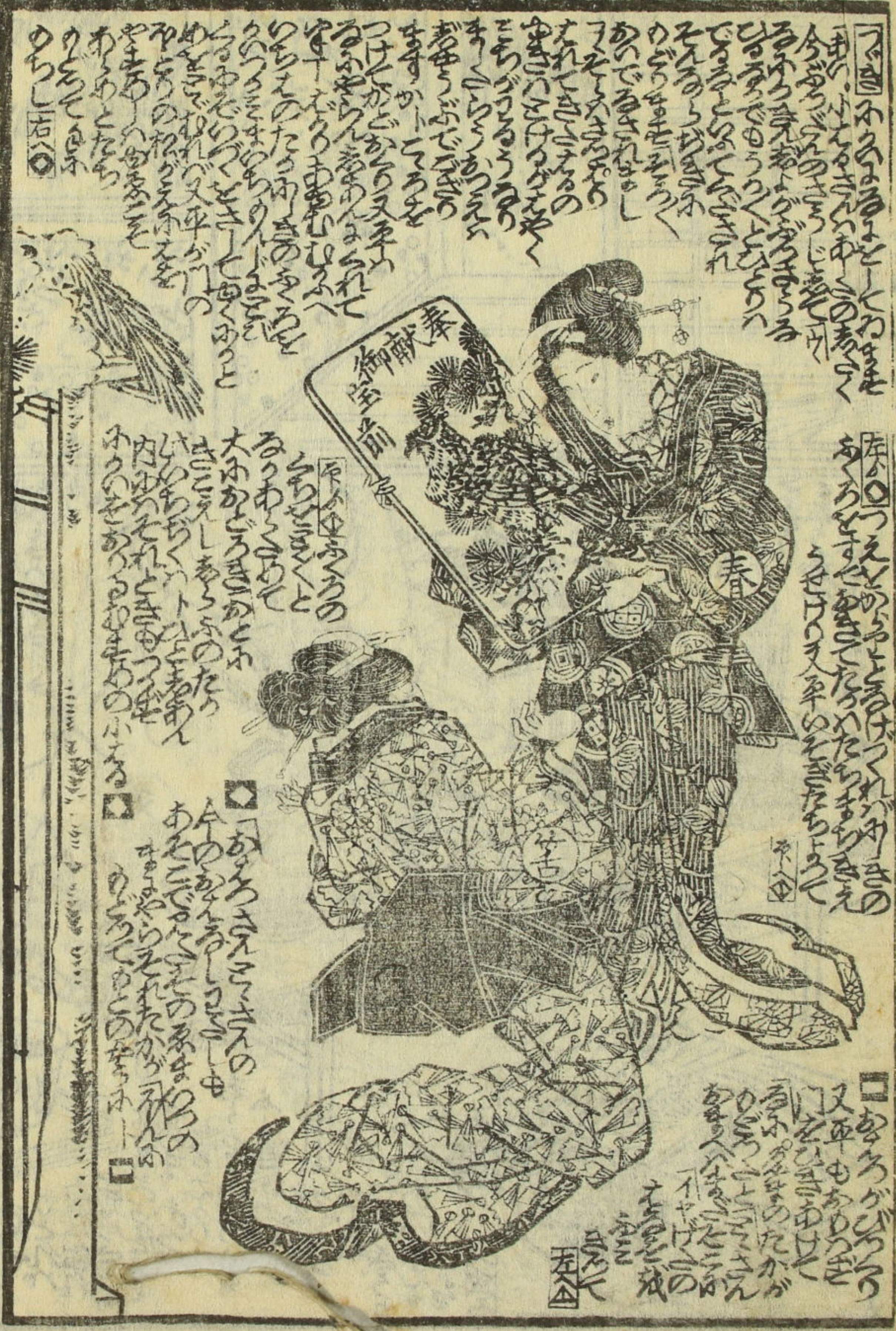
茶室

十七



又
TINKA

又
TINKA
又
TINKA



又
TINKA
又
TINKA

又
TINKA
又
TINKA

又
TINKA
又
TINKA



○まじりしは
おのれおのれまじりしは
あやふしきまじりしは
あやふしきまじりしは
あやふしきまじりしは

上段の文字
まじりしは
まじりしは
まじりしは
まじりしは

おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ

おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ



○おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ

おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ

おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ
おのれおのれ

國貞画種彦作

國貞の画は、
 人物の情態を
 巧みに描き、
 衣冠の華麗を
 細かく表現し、
 背景の簡潔さが
 人物の存在感を
 際立たせている。
 此の画は、
 國貞の代表作
 として知られて
 いる。



谷金川
 浄書
 奉希
 〇は又平
 ままの
 つきさ
 四編目
 ありの
 〇は又平

國貞 鶴屋南北作
 戲場梗染全十二冊
 五渡亭國貞画

唐入唐遊記
 吾妻花所縁衾襦六冊
 試亭流之助作
 同画

墨川亭雪齋作
 かかろの地三國志二編六冊
 歌川豊国画

山東京山作
 菊壽童後日盃全六冊
 香蝶樓國貞画

美豊仙女香四十銅
 表法香
 坂本氏

墨川亭雪齋作
 風流列女傳三編六冊
 歌川豊国画

五柳亭徳外作
 春霞ゆき乃廓全三冊
 歌川国芳画

同
 梅曆魁草紙全六冊
 歌川国安画

雪生麻呂作
 國性翁合巽全六冊
 歌川國虎画

江カトリ町河岸親仁橋角
 栄久堂山本平吉板

